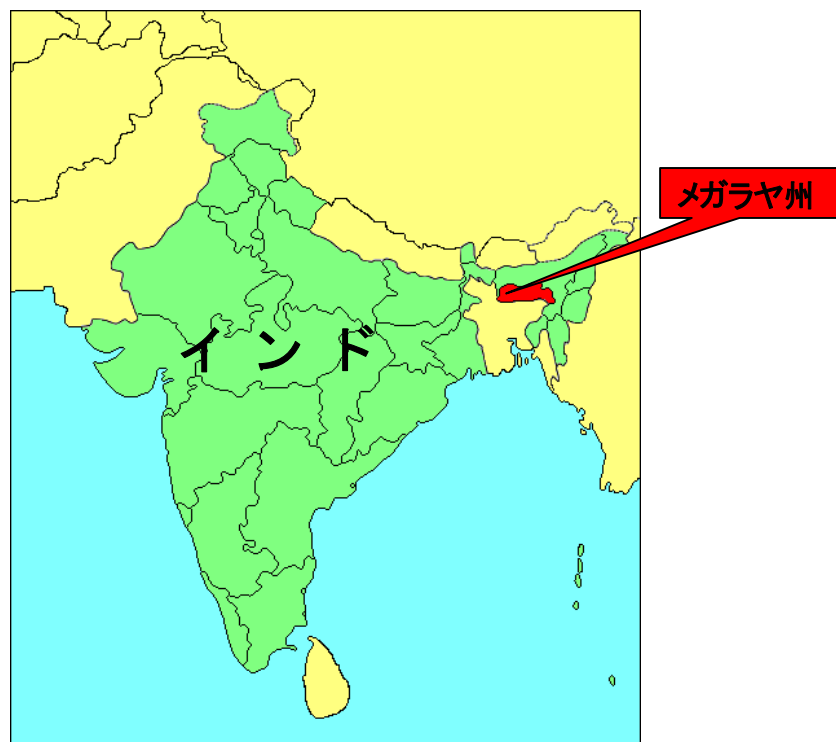


インドでつつが虫病が発生

2011年12月7日 ProMED 情報(Onion Live, Indo Asian News Service (IANS) report)



インドのメガラヤ Meghalaya 州では、この3週間で、少なくとも5名が、ダニによるつつが虫病で死亡しました。同州の感染症サーベイランス・プロジェクト(IDSP)責任者によると、40名以上が検査で陽性と診断され入院し、そのうち5名が死亡したとのことです。5名のうち、4名は Gordon Roberts 病院からの報告で1名は Nazareth 病院からの報告です。東メガラヤ州の Smit、Lad Mawreng、Tyrsad、Mawkyrwat、Moodymmai、Sohkymphor、Sutnga、Mawlein、Umsning および Ummat 村で患者が多く発生しています。Gordon Robert 病院だけで、これまでに合計12名が死亡し、現在25名が治療中ということです。

[ProMED 調整者] つつが虫病は、*Orientia tsutsugamushi* が病原体の人獣共通感染症です。つつが虫病はアジアの多くの地域や太平洋の島々から報告されており、常在地域として日本や極東ロシアから南へオーストラリア、西へパキスタンやアフガニスタンが良く知られています。

非特異的な発熱疾患で、その重症度は *O.tsutasugamushi* 株の種類や患者の免疫状態、その他に影響されます。刺し口はかさぶたを形成し、6～21日の潜伏期の後、発熱、頭痛、リンパ節腫大、筋肉痛を共通に認めます。斑状丘疹の他、悪心、嘔吐、下痢、下気道炎をみることもあります。未治療で経過すると、肺炎、髄膜脳炎、黄疸、腎不全、心筋炎に至る場合があります。未治療での死亡率は1～30%で、ドキシサイクリンが有効で、つつが虫病が疑われた場合は、確定診断をまたずに迅速に治療を開始しなければなりません。